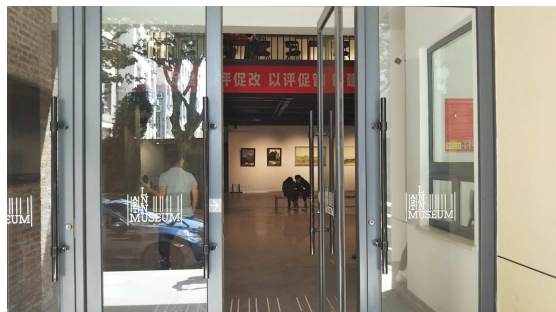


## 遼寧師範大学美術館



遼寧師範大学美術館のロゴ LNN Museum



美術館の入口

5月に入った頃から、大学南院での卒業コンサートに出かけたことは、「日記から」の20に書いた。その南院キャンパスには、音楽院だけでなく、美術学院も所在していた。こちらにも出かけることがあった。

そのきっかけは、やはりこの頃から時々出かけた大学図書館本館の玄関を入った所にあるホールで、美術学院の学生作品展が開かれていたことがきっかけだった。従来の中国のイメージからは遠い、現代的で、欧米や日本の若者が描きそうな絵画も目にすることができた。色鮮やかな水彩に少しだけ炭の黒色が使われていたりするところに、わずかながら中国的なものを感じた。

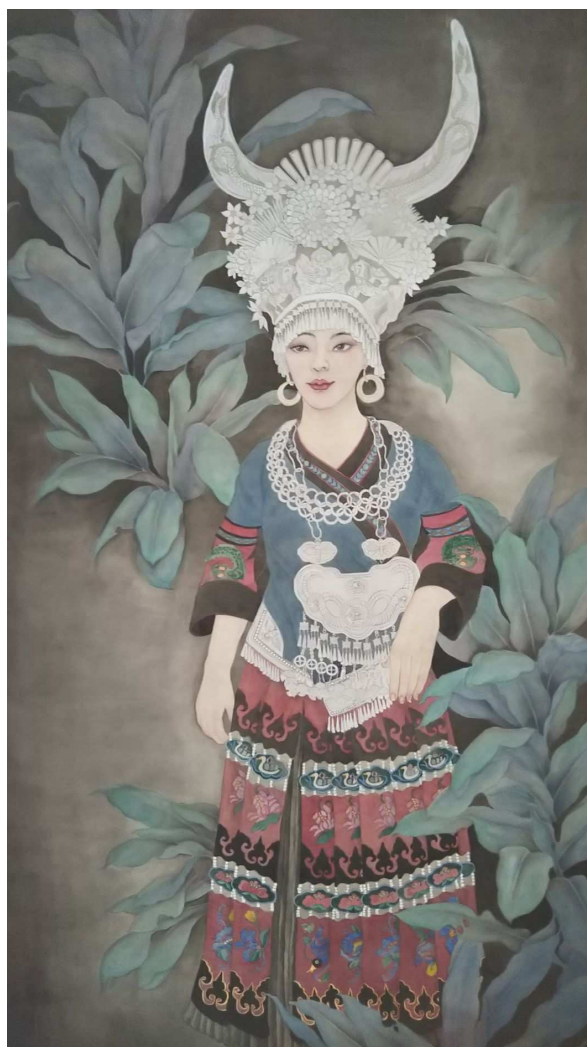
その展示で美術学院もあることを知ったのだが、考えて見れば、南院には前から美術館があることを知っていた。南院の学食にも足を運ぶことがあったが、その手前にレンガ建てのモダンな美術館があり、何度か前を通っていた。しかし、以前はほぼがらんどろで、何も展示がされていなかった。ちょうどこの頃、その広い一階ホールと二階のギャラリーに、図書館で見た学生達の作品が並ぶようになった。それにしても、玄関わきに備わった美術館の館名のロゴは、米国の美術館の館名のロゴかと思えるほど、アメリカ的な装いだった。この国が欧米とどう向き合っているのかを、理解できる代物だった。

留学も終わりに近づいた頃にも、寄らせてもらったことがある。この時は、学生たちの作品ではなく、イタリアの美術家の作品を並べる展覧会となっていた。この年、中国政府の一带一路政策を反映して、イタリアとの交流が盛んとなって来た。そういう話を、日本人留学生の松岡さんから聞いていた。まさに、そのものずばりの展覧会



大学図書館玄関ホールでの作品展

だったのではないだろうか・・・？  
以下、そうした作品を、紹介しよう。



↑ 西洋絵画も伝統的な線画も、折衷の表現も

↓ 美術館2階のギャラリー

